

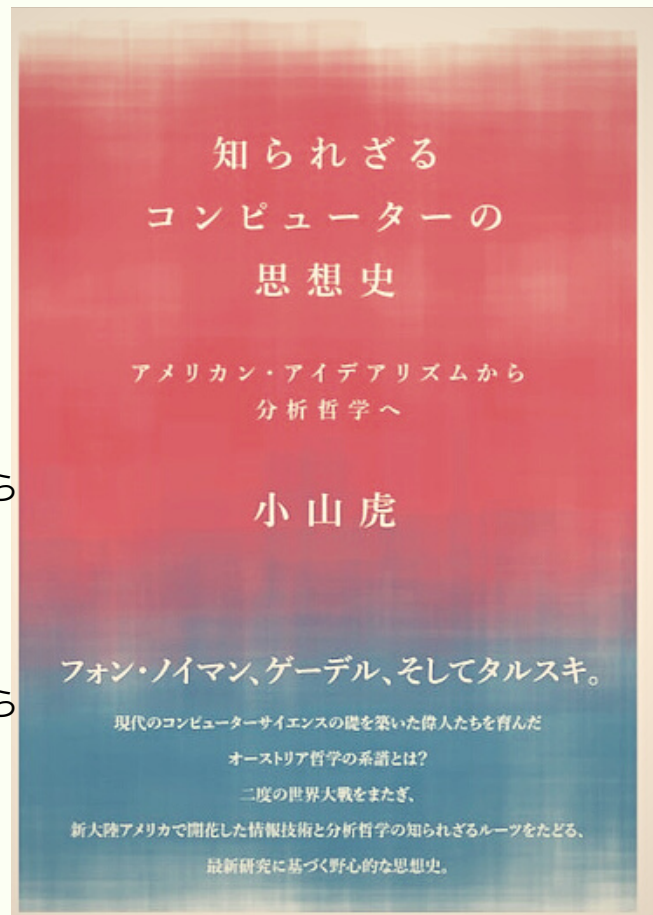
研究会 中央ヨーロッパ思想史を考えるために —哲学と歴史研究の分野横断的対話—

日時：2022年10月8日(土) 10:00~12:00

形式：オンライン(Zoom 利用)

プログラム

- 10:00-10:10 挨拶・案内・趣旨説明
中井杏奈（東京外国語大学、中央ヨーロッパ大学）
- 10:10-10:30 著者による本の紹介
小山虎（山口大学）
- 10:30-10:45 コメント1 オーストリア史の観点から
中山智香子（東京外国語大学）
- 10:45-11:00 コメント2 ハンガリー史・移民史の観点から
山本明代（名古屋市立大学）
- 11:00-11:10 休憩
- 11:10-11:25 コメント3 ドイツ・ポーランド史の観点から
衣笠太郎（神戸大学）
- 11:25-11:35 著者からのコメントへの応答
- 11:35 (~12:00) 質疑応答



本研究会は、2022年8月初旬に出版された『知られざるコンピューターの思想史 アメリカン・アイデアリズムから分析哲学へ』（小山虎著、PLANETS出版）が取り上げるテーマに関連する分野の専門家を招き、哲学と歴史という異なる領域から、その論点の是非や可能性について議論することを目的とする。

同書は、世紀末のオーストリアでうまれた論理実証主義と統一科学運動（ウィーン学団）が、同時代の中東欧でどのように深化し、ドイツ語圏の分析哲学・科学哲学に影響を与えたのか、そして、第二次世界大戦を挟んで戦後、そうした新しい哲学がどのように進展し、コンピューターの創設につながっていったかという思想的系譜を描いている。その際、クルト・ゲーデル（モラヴィア）、ジョン・フォン・ノイマン（ブダペスト）、アルフレド・タルスキ（ワルシャワ）の三人の科学者に焦点をあてており、中東欧の思想風景のひとつの見方を提示しているとも言える。

他方、同書は哲学研究者の視点からまとめられたもので、歴史研究とは異なる点に比重を置いている。こうした記述上の関心に注意を向けつつ、哲学研究の世界から見えてくる中央ヨーロッパの思想と、歴史研究という領域における思想史の捉え方とを建設的な形で検討したい。

※参加を希望される方は、以下のアドレス宛へメールにてお知らせください。

a.nakai@tufs.ac.jp（中井杏奈）

主催：海外事情研究所

